

市民による行政評価制度 「市民行政アセス」 報告書

— 令和元年度 評価結果 —
【教育委員会実施分】



令和2年9月
千歳市市民評価会議

1 市民による行政評価制度「市民行政アセス」の評価結果

(1) 評価におけるポイント

各施策は、次の項目をポイントに評価を行いました。

- ① 「市民が満足する取組となっているか」
- ② 「市民協働による実施が可能であるか」
- ③ 「施策目標の達成状況は順調か」
- ④ 「事業内容は市民ニーズに合致しているか」
- ⑤ 「評価表の記載内容について改善は必要か」
- ⑥ 「市民が求める情報提供が行われているか」

※ 評価及び理由・意見については、新型コロナウイルスの影響を踏まえたもの（新型コロナウイルスへの対策等）としておりません。

(2) 評価全般に関する意見

- ① 「成果指標」の設定について、毎年測ることができない、サンプルが限定的である、その時々的事象に影響される等のアンケート調査を基にしているものや、市民の期待に即さないものなど、指標の設定や目標数値が適正ではないと思われるものが多く見受けられる。現在、策定作業を進めている第7期総合計画における指標については、それぞれの施策の進捗状況を正しく捉えることのできる成果指標の設定を検討していただきたい。
- ② 実施している取組や内容が市民全体に伝わっていないものが見受けられる。各担当課の実施している取組について広く市民にわかりやすく伝える工夫をお願いしたい。
- ③ 各施策は他の施策とも繋がっており、それぞれの施策や事業の目標を達成するためには、個々の施策や担当課だけでなく、枠を超えた連携が必要となってくると思われるので、施策や担当課の垣根を越えた取組に期待したい。

(3) 市民評価会議の評価結果

市民評価会議では、一次評価の妥当性及び施策の今後の展開・事業の見直し等について、「事業構成の妥当性」、「施策の成果・進捗状況」及び「総合評価（部次長評価）」に基づいて、「総評」及び「今後の方向性」の評価を行いました。

その結果、評価対象となった教育委員会が実施する2施策のうち、施策内容の方向性は、『拡充』が1施策、『維持』が1施策、実施コストの方向性は、『重点化』が1施策、『維持』が1施策となりました。

(4) 各施策に関する評価結果

① 「学習機会の充実」

市民行政アセス（市民評価会議）評価結果

<p>総 評</p>	<p>一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて、実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。</p>	
<p>の 施 策 内 容 の 方 向 性</p>	<h1>維 持</h1>	<p>拡 充：事業内容を拡大・充実させる。</p>
		<p>維 持：現在の水準を維持する。</p>
		<p>縮 小：事業を縮小する。</p>
<p>の 実 施 コ ス ト の 方 向 性</p>	<h1>維 持</h1>	<p>重点化：事務事業のコストの重点化を図る。</p>
		<p>維 持：事務事業のコストは現状を維持する。</p>
		<p>効率化：事務事業のコストを抑制する。</p>
<p>理 由 及 び 意 見</p>	<p>理 由</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策に対する各事業はよく実施されており、今後も継続することが必要であると考える。 高星大学や大学院の取組は千歳市独自の取組として評価を得ており、継続した事業展開を行って欲しい。 <p>意 見</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで事業に参加したことのない市民に対するアプローチやニーズのキャッチが必要ではないか。同時に、学習機会の充実がなぜ必要なのか、施策を展開する目的を明確にすることも必要である。 評価の成果指標がセミナー等の参加者を対象としたものであり、限定された市民を対象にしたものであるため、指標の見直しが必要ではないか。 高星大学は、定員に漏れる市民が発生することや2年ごとの入学により学習機会が制限されている実態については、改善が必要である。 健康ポイントのような取組と同様に学習機会に参加した際のポイント制度の導入など、学習機会の向上につながる新たな試みについても検討して欲しい。 学習で得られた知識を社会に発揮するなど、更なる人材育成につながるような、学びを実践につなげる取組が必要である。 	

② 「教育活動の充実」

市民行政アセス（市民評価会議）評価結果

<p>総 評</p>	<p>一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて、実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。</p>	
<p>の 施 策 内 容 の 方 向 性</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">拡 充</p>	<p>拡 充：事業内容を拡大・充実させる。</p>
		<p>維 持：現在の水準を維持する。</p>
		<p>縮 小：事業を縮小する。</p>
<p>の 実 施 コ ス ト の 方 向 性</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">重点化</p>	<p>重点化：事務事業のコストの重点化を図る。</p>
		<p>維 持：事務事業のコストは現状を維持する。</p>
		<p>効率化：事務事業のコストを抑制する。</p>
<p>理 由 及 び 意 見</p>	<p>理 由</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育活動の安定的な提供が必要であり、事業に関わる教員等への支援はこれまで以上に重要であることから、拡充すべきである。 • 国際化を目指す千歳市としては、国際理解教育支援事業の拡充は重要であり、必要なコストをかけるべきである。 <p>意 見</p> <ul style="list-style-type: none"> • 事業の成果を正しく把握するため、アンケートの集計及び分析方法を見直す必要がある。 • 地域の文化や特色ある学習を今後も展開することが必要である。 • 教員を含め教育現場への支援が行われているが、今後も継続した支援が必要である。 • これまで実施してきたICT教育等は、コロナ禍において成果を発揮すべき点であり、今後も他施策と連動した教育活動の充実が重要である。 	

(5) 各施策評価表

各施策の施策評価表は、別表のとおり

令和元年度 施策評価表〈令和2年度 評価実施〉

施策①

基本目標	学びの意欲と豊かな心を育む教育文化のまち	展開方針	社会教育の充実	施策番号
施策CD	400510	施策名	学習機会の充実	83
担当課	教育部生涯学習課	評価者	教育部長 千田 義彦	
関係課(組織順)				

1 施策の意図及び現状分析

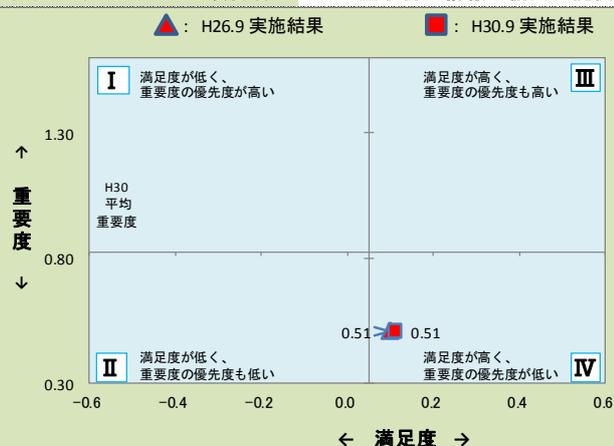
目指すこと 社会の変化や課題などに対応した様々な学習機会を充実します。

(1) 取組の方向	実施状況	該当する事務事業	令和元年度取組概要	備考
1 地域課題や国際問題など、市民ニーズに応じた学習機会を充実します。	実施中	生涯学習まちづくり推進講座開催事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市民教養セミナー(5回、1回中止)を実施 ・英会話教室(6回×2)を市民協働プロジェクト事業で実施 ・英語暗唱コンテストを実施 	
2 生きがいづくりや地域で活躍する人材づくりのため、高齢者の学習機会を充実します。	実施中	高齢者学級開催事業	<ul style="list-style-type: none"> ・千歳高星大学(50時間)を実施 ・千歳高星大学大学院(40時間)を実施 ・千歳市若返り学園(学園行事15回ほか)を実施 	
3				
4				
5				
6				

(2) 千歳市民まちづくりアンケート調査結果(千歳市での暮らしについての「満足度」と「重要度」)

まちづくりアンケートの項目名 : 18. 生涯学習の情報や機会の提供

市民から見てこの施策は **区分Ⅳ** の評価です



アンケート結果の比較分析

前回調査と比較して、満足度・重要度ともにほぼ横ばいである。近年は、教育委員会をはじめ様々な機関・団体から生涯学習の機会が提供されていることで、満足度など一定程度評価されている。

(3) 施策分野の現状と課題													
現状と課題													
<p>高齢化が進んでいる中、市民生活の向上に向けた学習機会や高齢期を生きがいのある人生として送るための学習機会を提供している。今後も高齢化が進み、社会状況が激しく変化中、だれもが生涯の様々なステージで必要となる能力を身につけ、市民一人ひとりが生涯にわたって活躍していくことがますます重要になっている。市民一人ひとりが豊かな人生を送るため、また、市民力向上のため、どの世代にも適応する生涯学習のニーズや生活課題に応じた学びの機会を提供する必要がある。</p>													
2 成果指標の達成状況		「前年度との比較」 H30実績値とR1実績(見込)値との比較					「R2目標達成見込」						
		◎:よくなった、○:維持、×:悪くなった、—:比較ができない					◎:目標達成に向け順調に推移、△:目標達成が遅れる可能性有、×:目標達成は難しい						
成果指標	指標名	指標の内容	単位	基準値	H27 現状値	R2 目標値	実績(見込)値					前年度 との比較	R2目標 達成見込
							H27	H28	H29	H30	R1		
1	市民が問題解決のために取り組んだ学習内容の理解度	教育委員会主催の市民セミナー事業のアンケート結果で、よく理解できたと答えた人の割合	%	71.2	82.5	80	75.7	88.2	89.4	85.0	80.7	○	◎
	成果指標1の推移												
2	高齢者の学習意欲と地域参画意欲の向上度	教育委員会主催の高齢者対象事業のアンケート結果で、今後の活動に大いに役立つと答えた人の割合	%	61.5	63.2	70	63.7	74.9	63.3	61.9	65.4	○	◎
	成果指標2の推移												
3													
4													
5													
参考指標													

3 施策を構成する事務事業の評価		「種類」事務事業の種類								
		<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業：市民・団体等に対し市が独自に実施する事業 ・施設管理事業：市の施設、道路、公園、河川等の維持管理事業 ・経常的事務：法令等による義務的事務、内部管理事務、市有地等管理事務 ・ハード事業：市の施設や道路の建設等、社会資本整備事業 ・法定受託事務：地方自治法に定められた法定受託事務（本来は国・北海道が行う事務を市が請け負っている事務） 								
番号	事務事業名	種類	事務事業の内容	施策目標を達成するための取組			事業費(千円)			
	担当課係			現状と課題、施策目標達成に向けた改善案等	施策における優先度貢献度	今後の方向性	上段：直接経費	中段：人件費	下段：合計	
1	社会教育活動支援業務	自主事業	社会教育活動を行う個人や団体に対して団体登録や資料の配布、事業の後援などを行うほか、市民の社会教育活動を支援するための事務や職員の資質向上を図る研修会参加等の経費	専門職員である社会教育主事の配置が1名にとどまっており、市民(個人・団体)へ必要な助言等が行えるよう、職員の資質向上に努める。	高い	現状のまま継続	R1 決算	89	1,875	1,964
	教育部生涯学習課社会教育係						R2 予算	229	(直接経費のみ)	
2	高齢者学級開催事業	自主事業	高齢者が自ら進んで学習活動や社会的活動を続け、主体的に生きるための生きがいづくりや社会参加を促すものとして「千歳高星大学」「千歳高星大学大学院」「千歳市若返り学園」を実施	高齢者が健康で生きがいを持ち、それぞれの知識や経験を生かして地域活動への参加意欲を高める学習機会の充実を図る。受講者の地域活動への参加を一層促進するため、学習プログラムを工夫し、参加者の主体的な学びをサポートする。	高い	現状のまま継続	R1 決算	2,259	7,202	9,461
	教育部生涯学習課社会教育係						R2 予算	2,861	(直接経費のみ)	
3	生涯学習まちづくり推進講座開催事業	自主事業	地域的な課題や社会の変化に伴う今日的な課題に関する生涯各期にわたる学習機会の充実と、これらの課題に対応した市民活動やコミュニティ活動の実践を促すための学習機会を提供	社会の変化が一層激しくなることが想定される中、市民一人ひとりが生涯にわたって学び続け、変化の激しい社会を生き抜く力を身につけることができるよう、市民ニーズや現代的・社会的課題にも着目し、人生を豊かに生きていくことができる学習機会の充実を図る。	高い	現状のまま継続	R1 決算	788	2,656	3,444
	教育部生涯学習課社会教育係						R2 予算	634	(直接経費のみ)	
4	ユネスコ協会活動支援事業	自主事業	千歳ユネスコ協会事務局を運営、チャリティーパーティーや書きそんじハガキの収集等を通じて得た拠金をユネスコ世界寺子屋運動や千歳市奨学基金へ寄附、ユネスコ活動の普及・推進を図る	会員相互及び事務局との連携により、目的に沿った活動がなされている。会員の高齢化などの課題はあるが、持続的な活動を行うため、組織の強化と諸活動の活性化を図る。	やや低い	現状のまま継続	R1 決算	0	2,188	2,188
	教育部生涯学習課社会教育係						R2 予算	0	(直接経費のみ)	
5							R1 決算	0		
							R2 予算		(直接経費のみ)	
6							R1 決算	0		
							R2 予算		(直接経費のみ)	
7							R1 決算	0		
							R2 予算		(直接経費のみ)	
8							R1 決算	0		
							R2 予算		(直接経費のみ)	
9							R1 決算	0		
							R2 予算		(直接経費のみ)	
10							R1 決算	0		
							R2 予算		(直接経費のみ)	
事業費		R1決算額	合計(直接経費+人件費)	17,057 千円	直接経費		人件費	13,921 千円		
			市民一人当たりコスト	175 円						
		R2予算額	合計(直接経費のみ)	3,724 千円						
			市民一人当たりコスト	38 円						

4 施策の評価

<p>「事業構成の妥当性」</p> <p>A: 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)。 B: おおむね効果的な事業構成である(一部見直し等の余地がある)。 C: あまり効果的な事業構成ではない(見直し等の余地が大きい)。</p>	<p>「施策の成果・進捗状況」</p> <p>A: 十分な成果が得られている(進捗状況は順調である)。 B: おおむね成果が得られている(進捗状況はおおむね順調である)。 C: 期待した成果が得られていない(進捗状況は遅れている)。</p>	<p>「施策内容の方向性」</p> <p>(施策目標達成のため、) 拡充: 事務事業内容を拡大・充実させる。 維持: 事務事業内容の水準を維持する。 縮小: 事務事業内容を縮小する。</p>	<p>「実施コスト(=予算、人件費)の方向性」</p> <p>(施策目標達成のため、) 重点化: 事務事業のコストの重点化を図る。 維持: 事務事業のコストは現状を維持する。 効率化: 事務事業のコストを抑制する。</p>
--	--	--	--

(1) 施策内容の評価(事業構成の妥当性と施策の成果・進捗状況)

①事業構成の妥当性

A

② 施策の成果・進捗状況

B

評価理由・問題点

社会状況が激しく変化中、市民一人ひとりが自己を磨き、豊かな人生を送るため、また、市民力向上のため、生涯の様々なステージで必要となる能力を身につけ、一人ひとりが生涯にわたって活躍していけるよう、生涯学習のニーズや現代的・社会的課題に応じた学習機会を提供する必要があり、事業の継続は必要不可欠である。生涯にわたって学びを進めるためには、対象者の満足度が欠かせないため、高齢者をはじめとする市民全体の生涯学習事業の一環として、わかりやすい内容、人生に役立つ内容など、どの世代にも適応する生涯学習のニーズや生活課題に応じた学びの機会を提供し、地域の教育力向上につながるような事業としていく必要がある。

(2) 総合評価(上記①・②の評価結果を踏まえた部次長評価)

①施策内容の方向性

維持

②実施コストの方向性

維持

総合評価に係る評価理由・所見など

社会の変化により生じる生活課題に対応した学習機会を提供することや高齢者への学習機会の提供は、市民生活の向上や市民主体のまちづくり活動には欠かせないものであり、今後も市民ニーズと現代的・社会的課題に応じた学習機会を充実させる必要がある。

市民行政アセス(市民評価会議)

(1) 総評

一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて、実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。

(2) 総合評価

①施策内容の方向性

維持

②実施コストの方向性

維持

理由・意見

理由

- ・ 施策に対する各事業はよく実施されており、今後も継続することが必要であると考えます。
- ・ 高星大学や大学院の取組は千歳市独自の取組として評価を得ており、継続した事業展開を行って欲しい。

意見

- ・ これまで事業に参加したことのない市民に対するアプローチやニーズのキャッチが必要ではないか。同時に、学習機会の充実がなぜ必要なのか、施策を展開する目的を明確にすることも必要である。
- ・ 評価の成果指標がセミナー等の参加者を対象としたものであり、限定された市民を対象にしたものであるため、指標の見直しが必要ではないか。
- ・ 高星大学は、定員に漏れる市民が発生することや2年ごとの入学により学習機会が制限されている実態については、改善が必要である。
- ・ 健康ポイントのような取組と同様に学習機会に参加した際のポイント制度の導入など、学習機会の向上につながる新たな試みについても検討して欲しい。
- ・ 学習で得られた知識を社会に発揮するなど、更なる人材育成につながるような、学びを実践につなげる取組が必要である。

令和元年度 施策評価表〈令和2年度 評価実施〉

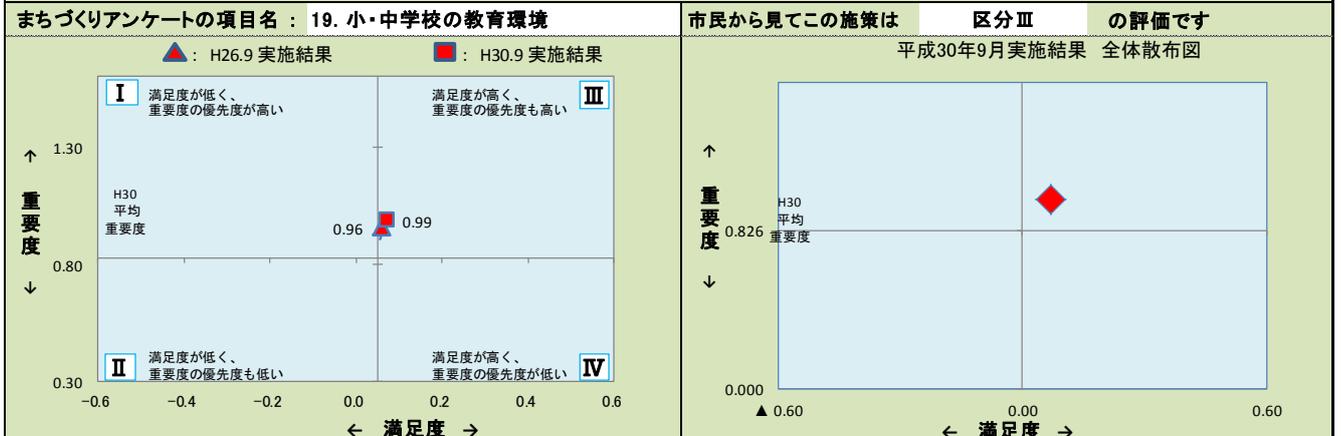
施策②

基本目標	学びの意欲と豊かな心を育む教育文化のまち	展開方針	小中学校教育の充実	施策番号	
施策CD	400320	施策名	教育活動の充実		76
担当課	教育部学校教育課	評価者	教育部長 千田 義彦		
関係課(組織順)	教育部企画総務課、教育部学校指導課				

1 施策の意図及び現状分析

目指すこと	生きる力の源となる「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」のバランスがとれた子どもたちを育む教育活動の充実を図ります。			
(1) 取組の方向	実施状況	該当する事務事業	令和元年度取組概要	備考
1 各学校の特色ある教育活動を推進します。	実施中	小中学校アクティブスクール活動事業	アクティブスクール活動補助金を交付した(小学校17校、中学校9校)。	
2 家庭教育や地域教育と連携した学習環境の創造に努めます。	実施中	学校活動支援事業	科技大が運営する電子学習システムを活用した(利用者2,384名)。科技大の学生による長期休業中の学習サポート事業を実施した。市P連と連携し、「家庭生活宣言」の取り組みを進めた。	
3 千歳市学力向上検討委員会などの関係機関と協力し、学力の向上を図ります。	実施中	学力向上推進事業	市内小中学校から選任した委員により、学力向上施策の研究を行った。	
4 幼稚園・小中学校・高等学校・大学が連携した協力体制を整えます。	実施中	学校活動支援事業	・小学校と中学校が連携して、共通の課題への取組を推進した。 ・幼稚園・保育所と、子どもの成長に関する情報交換や交流を行い、小学校へ円滑に接続できるよう取り組んだ。	
5 国際理解、環境、福祉、情報、職業、食育、防犯など、様々な分野を通して豊かな心と生きる力を育て、未来を担う人材の育成を進めます。	実施中	国際理解教育支援事業 小中学校アクティブスクール事業	小中学校へのALT配置(6名)や、アクティブスクール事業において様々な分野の体験的活動を実施した。	
6 外国語を用いて、積極的にコミュニケーションを図る資質や能力を育成します。	実施中	国際理解教育支援事業	ALT6名による小学校中高学年、中学校における外国語授業の支援を実施したほか、小学校低学年においても、外国語市民講師の派遣等により外国語活動の充実を図った。	
7 学習指導要領に基づいた教育課程を円滑に実施します。	実施中	教育課程編成事務 千歳市学校課題研究指定校助成事業費	・全小中学校の教育課程を審査した。 ・市教委が指定した学校の課題研究に対し補助金を交付した(2校)。	
8 「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、ゲーム機やスマートフォンを使用する際のルールづくりなど、保護者とともに家庭での生活習慣づくりを進め、生活リズムの向上を図ります。	実施中	学力向上推進事業	・市P連と連携し、児童生徒、保護者に対し「家庭生活宣言」中の家庭生活ルールの周知を行った。 ・各小中学校において、朝読書等の読書活動の取組や食に関する指導を行った。	
9 社会性を身に付け礼儀正しく他者を思いやる心と健やかな体づくりを進めます。	実施中	学校活動支援事業	校外活動の際のバス等の借り上げや、文化活動、体育活動の全道・全国大会出場に対し補助金を交付するなど、文化・体育活動を支援した。	

(2) 千歳市民まちづくりアンケート調査結果(千歳市での暮らしについての「満足度」と「重要度」)



アンケート結果の比較分析

少子化や核家族化、国際化、情報化の進展など、教育を取り巻く環境は急速に変化しており、その様な中、子どもたちが共に生き生きと学び、育つことができるよう、特色を生かした学校教育の充実が望まれていることから、重要度も優先度も高くなっていると考えられる。

千歳市では、各学校の特色のある教育活動や家庭や千歳科学技術大学と連携した学習環境づくり、国際交流活動などを積極的に進め、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」などのバランスがとれた子どもたちを育む教育活動の充実にも努めたことにより、満足度が高まっているものと考えている。

(3) 施策分野の現状と課題																																								
現状と課題																																								
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校の特色のある教育活動では、平成26年度より英語活動を新たに加えたアクティブスクール事業を充実。 地域教育機関の連携では、千歳科学技術大学の電子学習システムの活用、学生による長期休業中の学習サポート事業の実施。 国際理解活動では、ALTによる英語教材の作成や長期休業中の補習事業などを実施。 健やかな体づくりでは、校外活動のバス等の借上げ料や体育、文化活動の全国、全道大会出場補助金の充実。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千歳科学技術大学との更なる連携の充実(電子学習システム、学習サポート事業) ALTの増員や優秀な人材確保 家庭の教育力の向上 地域との連携による教育力の向上 																																								
2 成果指標の達成状況		「前年度との比較」 H30実績値とR1実績(見込)値との比較					「R2目標達成見込」																																	
		◎:よくなった、○:維持、×:悪くなった、—:比較ができない					◎:目標達成に向け順調に推移、△:目標達成が遅れる可能性有、×:目標達成は難しい																																	
成果指標	指標名	指標の内容	単位	基準値	H27 現状値	R2 目標値	実績(見込)値					前年度 との比較	R2目標 達成見込																											
							H27	H28	H29	H30	R1																													
1	教育の充実に関する保護者の満足度	全校の学校評価の保護者アンケートで教育活動に関する項目に満足・やや満足・普通と回答した保護者の割合	%	-	86	70	87	87	90	90	93	◎	◎																											
	<p>成果指標1の推移</p> <table border="1"> <caption>成果指標1の推移データ</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績値</th> <th>H27現状値</th> <th>R2目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>86</td> <td>86</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>87</td> <td>-</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>87</td> <td>-</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>90</td> <td>-</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>93</td> <td>-</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table>													項目	実績値	H27現状値	R2目標値	基準値	-	-	-	H27	86	86	70	H28	87	-	70	H29	87	-	70	H30	90	-	70	R1	93	-
項目	実績値	H27現状値	R2目標値																																					
基準値	-	-	-																																					
H27	86	86	70																																					
H28	87	-	70																																					
H29	87	-	70																																					
H30	90	-	70																																					
R1	93	-	70																																					
2																																								
3																																								
4																																								
5																																								
参考指標																																								

3 施策を構成する事務事業の評価			「種類」事務事業の種類				事業費(千円)			
番号	事務事業名 担当課係	種類	事務事業の内容	施策目標を達成するための取組			事業費(千円)			
				現状と課題、施策目標達成に向けた改善案等	施策における優先度貢献度	今後の方向性	R1 決算	R2 予算 (直接経費のみ)		
1	千歳市学校教育基本計画進行管理業務	経常的 事務	教育基本法第17条第2項の規定により、同計画を策定したことから、計画期間(平成26年度～令和2年度)に定めた目標の達成に向け進行管理を行う。	PDCAサイクルの考え方に基づき、同計画に掲げた取組状況を把握し施策の評価を行い、必要に応じて改善等を行い計画の実効性を高めていく。	高 い	現 状 の ま ま 継	R1 決算	0		
	R2 予算						781			
2	小中学校運営管理業務	経常的 事務	施設の運営のための光熱水費、校舎の維持管理経費、教材や物品の購入など安定的に学校を運営するための経費	学校運営に係る経費について、適宜適切に対応し、安定的に学校運営を行っている。新学習指導要領に対応した学習環境の整備や老朽化備品の更新など、計画的に推進する必要がある。	非 常 に 高 い	拡 大	R1 決算	402,714		
	R2 予算						29,006			
3	教育委員会運営管理業務	経常的 事務	教育委員会の運営に係る事務事業全般を効率かつ適正に執行し、教育行政の諸課題の解決と教育の振興を推進する。	教育行政の諸施策と教育振興を推進するため、教育委員会運営に係る事務事業全般を効率かつ適切に執行している。	高 い	現 状 の ま ま 継	R1 決算	431,720		
	R2 予算						16,977			
4	小中学校アクティブスクール活動事業	自 主 事 業	総合的な学習の時間をはじめとする各小中学校に特色ある教育活動に対し、アクティブスクール活動事業補助金の交付を行う。	各学校で創意工夫を凝らした事業が展開され、特色ある教育活動の推進や地域との連携強化にもつながっている。児童生徒の学習意欲を向上させるうえで、今後も継続していくことが必要な事業である。	高 い	現 状 の ま ま 継	R1 決算	2,188		
	R2 予算						19,165			
5	学校活動支援事業	自 主 事 業	校外学習や課外活動などにおけるバスの運行や、小規模校の芸術鑑賞、運動・文化行事の全道・全国大会出場、習熟度別少人数指導のための補助など、様々な学校活動に対する支援を行う。	科技大と連携した電子学習システムや大学生による学習サポート事業等、各学校が行う様々な学校教育活動に支援を行うことで、児童生徒の健全な心身の育成に貢献している。今後においては、教育を取り巻く環境やニーズの変化に迅速に対応していく必要がある。	高 い	現 状 の ま ま 継	R1 決算	7,434		
	R2 予算						1,875			
6	教育課程編成業務	経常的 事務	各学校の教育課程を審査し、適正な教育課程の編成と学校経営が確立されるよう支援する。	適正な教育課程の編成がなされているかを学校訪問等を行いながら確認することで、学校経営の円滑な運営を支援する必要がある。	高 い	現 状 の ま ま 継	R1 決算	9,309		
	R2 予算						7,500			
7	千歳市学校課題研究指定校助成事業	自 主 事 業	指定学校が課題や教育方法を研究し自校の課題解決や教育方法の改善・充実を図るとともに、市内各学校にその成果等を発表することにより、学校教育の振興を図るための助成を行う。	研究発表会として他校への公開授業を行うまでには、校内での個別研修会や模擬授業などの取組みを重ねて臨むこととなり、教員の研修の場として有効な事業である。	高 い	現 状 の ま ま 継	R1 決算	27,271		
	R2 予算						4,375			
8	国際理解教育支援事業	自 主 事 業	・ALT(英語指導助手)の配置。 ・小学校1～4年生を対象に英語に堪能な市民講師を配置。 ・ALTIによる小学校用英語リスニングCDの作成や中学校での長期休業中の英語補習事業。	ALTや英語に堪能な市民講師などの派遣により、市内小中学生の英会話力や国際理解に関する興味関心、コミュニケーション能力が向上している。また、異文化に触れることにより人間形成にも役立つものと考えている。	高 い	拡 大	R1 決算	31,646		
	R2 予算						35,899			
9	学力向上推進事業	自 主 事 業	習熟度別指導を実施するため、小中学校に学習支援員(第2種非常勤職員)を配置する。	小規模校を除く小中学校に計28名の学習支援員を配置しているが、習熟度別少人数指導により学習効果を高めるため、更なる配置人員の増員を検討する必要がある。増員に当たっては、必要な資格を持った人材の確保が課題である。	高 い	拡 大	R1 決算	0		
	R2 予算						8,000			
10							R1 決算	0		
	R2 予算						0			
事業費		R1決算額	合計(直接経費+人件費)	580,312 千円	直接 経 費	514,737 千円	人 件 費	65,575 千円		
			市民一人当たりコスト	5,970 円						
			R2予算額	合計(直接経費のみ)					500,937 千円	500,937 千円
			市民一人当たりコスト	5,154 円						

4 施策の評価

「事業構成の妥当性」 A: 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)。 B: おおむね効果的な事業構成である(一部見直し等の余地がある)。 C: あまり効果的な事業構成ではない(見直し等の余地が大きい)。	「施策の成果・進捗状況」 A: 十分な成果が得られている(進捗状況は順調である)。 B: おおむね成果が得られている(進捗状況はおおむね順調である)。 C: 期待した成果が得られていない(進捗状況は遅れている)。	「施策内容の方向性」 (施策目標達成のため) 拡充: 事務事業内容を拡大・充実させる。 維持: 事務事業内容の水準を維持する。 縮小: 事務事業内容を縮小する。	「実施コスト(=予算、人件費)の方向性」 (施策目標達成のため) 重点化: 事務事業のコストの重点化を図る。 維持: 事務事業のコストは現状を維持する。 効率化: 事務事業のコストを抑制する。
--	--	---	---

(1) 施策内容の評価(事業構成の妥当性と施策の成果・進捗状況)

①事業構成の妥当性

A

② 施策の成果・進捗状況

B

評価理由・問題点

【事業構成の妥当性】

生きる力の源となる「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」のバランスがとれた子どもたちを育む教育活動の充実を図るため、「豊かな心」では国際理解、環境、福祉、情報、職業、食育、防犯など、様々な分野を通して豊かな心と生きる力を育て、未来を担う人材の育成を進めている。「確かな学力」では各学校の特色ある教育活動の推進、家庭教育や地域教育と連携した学習環境の創造すると共に、新学習指導要領に基づいた教育課程を円滑に実施し学力向上に向けた取組を進め、幼稚園・小中学校・高等学校・大学とも連携体制を構築している。「健やかな体」では「早寝・早起き・朝ごはん」や「読書」を奨励し、保護者とともに児童生徒の望ましい生活習慣づくりや社会性を身に付け礼儀正しく他者を思いやる心と健やかな体づくりを進めていることから、効果的に事業が構成されていると考えている。

しかし、教育を取り巻く環境は急速に変化していることから、今後、環境やニーズが変化した際には迅速に対応していく必要がある。

【施策の成果・進捗状況】

- ・各学校の特色ある教育活動では、全ての小中学校でアクティブスクール事業を活用している。
- ・家庭教育や地域教育と連携した学習環境の創造では、千歳科学技術大学と連携して電子学習システムや大学生による学習サポート事業を実施している。
- ・未来を担う人材の育成については、国際理解教育支援事業、小中学校アクティブスクール事業により、国際理解、環境、福祉、情報、職業、食育、防犯など様々な分野の活動を行っている。
- ・新学習指導要領に基づいた教育課程の円滑な実施については、教育課程編成事務、千歳市学校課題研究指定校助成事業費により行っている。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」や「読書」の奨励による児童生徒の望ましい生活習慣づくりについては、各小中学校において、朝読書等の読書活動の取組や食に関する指導を行っている。
- ・社会性を身に付け礼儀正しく他者を思いやる心と健やかな体づくりについては、学校活動支援事業により様々な取組を支援している。

(2) 総合評価(上記①・②の評価結果を踏まえた部次長評価)

①施策内容の方向性

拡
充

②実施コストの方向性

重
点
化

総合評価に係る評価理由・所見など

教育活動の充実については、変化の激しいこれからの社会を生き抜くため「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」とバランスのとれた力を育てる環境づくりが必要であり、「千歳市学校教育基本計画」を基に長期的な展望に立って、これらの取組を進めていくことが重要であると考えている。また、近年、重要性が指摘されている家庭教育の充実やグローバルな時代に求められる能力を身に付けさせるには、保護者と学校、地域住民の間で、子どもたちの健全な成長を望む思いを共有し、相互の連携・協力による取組の充実や国際理解活動や各学校での特色のある教育活動の充実が必要である。

今後も、教育環境の急速な変化に迅速に対応するため、時代に合った教育活動や事業を適宜見直し拡充していくことが必要と考える。

市民行政アセス(市民評価会議)

(1) 総 評

一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて、実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。

(2) 総合評価

①施策内容の方向性

拡
充

②実施コストの方向性

重
点
化

理由・意見

理 由

- ・教育活動の安定的な提供が必要であり、事業に関わる教員等への支援はこれまで以上に重要であることから、拡充すべきである。
- ・国際化を目指す千歳市としては、国際理解教育支援事業の拡充は重要であり、必要なコストをかけるべきである。

意 見

- ・事業の成果を正しく把握するため、アンケートの集計及び分析方法を見直す必要がある。
- ・地域の文化や特色ある学習を今後も展開することが必要である。
- ・教員を含め教育現場への支援が行われているが、今後も継続した支援が必要である。
- ・これまで実施してきたICT教育等は、コロナ禍において成果を発揮すべき点であり、今後も他施策と連動した教育活動の充実が重要である。

2 令和2年度 千歳市市民評価会議委員名簿

(敬称略)

区 分 (分 野)	氏 名	所 属 団 体	備 考
学識経験者	やまなか あきお 山 中 明生	千歳科学技術大学	会長
住民の意見を 代表する者 (総合調整)	あいざわ あきこ 相澤 晶子	千歳市市民協働推進会議	
住民の意見を 代表する者 (生活福祉)	やまきた たけし 山 北 武	千歳市社会福祉協議会	
住民の意見を 代表する者 (地域経済)	ますこ ひろゆき 増子 洋行	千歳市商店街振興組合連合会	
住民の意見を 代表する者 (教育文化)	きた やすひろ 喜多 康裕	千歳市PTA連合会	
公 募	よしだ じゅんいち 吉田 純 一	—	副会長
公 募	はた ゆき 秦 由基	—	

アドバイザー

氏 名	所 属 団 体
しのはら しんじ 篠原 辰二	特定非営利活動法人 Facilitator Fellows (ファシリテーター フェローズ)

千歳市市民評価会議設置要綱

(設置)

第1条 市の施策及び事業について、市民の視点に立ち評価を行うことにより、評価の客観性及び透明性を確保し、もって効率的な行政運営を推進するため、千歳市市民評価会議（以下「評価会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 評価会議は、市の施策及び事業の評価に関する事項について調査審議する。

(組織)

第3条 評価会議は、委員7人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が依頼する。

- (1) 学識経験者
- (2) 住民の意見を代表する者
- (3) その他市長が特に必要と認める者

3 評価会議には、必要に応じアドバイザーを置くことができる。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 評価会議に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員が互選する。

3 会長は、評価会議を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(議事)

第6条 評価会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 評価会議は委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会長は、必要と認めるときは、委員以外の者に評価会議の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

4 評価会議は公開する。ただし、公開することにより評価会議に著しい支障を及ぼすおそれのある場合その他相当の理由があると会長が認めた場合は、これを非公開とすることができる。

(庶務)

第7条 評価会議の庶務は、千歳市企画課において行う。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、評価会議の運営に関し必要な事項は、会長が評価会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成24年2月28日から施行する。

附 則 (平成26年1月31日市長決裁)

この要綱は、平成26年1月31日から施行する。